

鳥越一向一揆歴史館 企画展

鉄砲と一向一揆

出土物は語る



2024年7月13日(土)～9月16日(月・祝)

会場 白山市立鳥越一向一揆歴史館

『鉄砲記』(慶長十一年1606)によれば、火縄銃が日本へ渡来するのは天文十二(1543)年とされる。戦国時代日本で火縄銃は瞬く間に戦場の主力武器となる。生産地は紀州根来、泉州堺、近江国友が知られる。元亀元(1570)年から戦われた大坂本願寺合戦では両軍ともに数千挺の鉄砲を動員したといわれる。重ねられた「鳥越城跡」発掘調査によって多種多様の発掘物が出土している。中でも大量に出土した鉄砲玉は実戦で使用されていたことを物語る。『鳥越城跡発掘調査報告書』(白山市教育委員会)によれば、三種類(4匁・6匁・10匁玉) 88玉(200玉とも100余玉ともいわれる)と報告される。



「鳥越城跡」出土弾丸(3種)

五箇山の産業のひとつ
発酵技術で良質の煙(塩)硝を
生産していた



五箇山煙硝小屋

鉄砲は芯に鍛鉄を巻きつける
(国友鉄砲ミュージアム蔵)

主催/白山市 協力/国友鉄砲ミュージアム 開館時間/9時～17時(入館は16時30分まで)
休館日/毎週月曜日(祝日の場合は翌日) 入館料/一般310円・中学生以下無料・団体260円
(15名以上) お問合せ/白山市立鳥越一向一揆歴史館 白山市出合町甲26番 ☎076-254-8020

